

**Netra Blade X3-2B (旧 Sun Netra X6270 M3  
Blade) Oracle Solaris オペレーティングシ  
ステム**

インストールガイド

Copyright © 2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

---

このドキュメントの使用方法 .....	5
プロダクトノート .....	5
関連ドキュメント .....	5
サポートとアクセシビリティ .....	6
Oracle Solaris OS のインストールについて .....	7
Oracle Solaris のインストールタスクの表 .....	7
サポートされている OS のバージョンおよび最新情報 .....	7
OS のインストールオプション .....	8
OS のインストールの準備 .....	13
Oracle Solaris のドキュメントの入手 .....	13
インストールセッションの設定 .....	14
BIOS の設定 .....	18
Oracle Solaris OS のインストール .....	21
Oracle Solaris OS のサポートされているバージョンをインストールする .....	21
論理および物理ネットワークインタフェース名を特定する .....	22
サーバーシステムツールのインストールとドライバへのアクセス .....	25
索引 .....	29



# このドキュメントの使用方法

---

このドキュメントでは、Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール方法、および更新と新しいリリースの取得方法について説明します。

- 5 ページの「プロダクトノート」
- 5 ページの「関連ドキュメント」
- 6 ページの「サポートとアクセシビリティ」

## プロダクトノート

この製品に関する最新の情報と既知の問題については、次にあるプロダクトノートを参照してください。

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=NetraBladeX3-2B>

## 関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	<a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>
Netra Blade X3-2B	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=NetraBladeX3-2B">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=NetraBladeX3-2B</a>
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31</a>
Oracle Hardware Management Pack	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp</a>

## サポートとアクセシビリティ

---

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	<a href="http://support.oracle.com">http://support.oracle.com</a> 聴覚障害の方へ: <a href="http://www.oracle.com/accessibility/support.html">http://www.oracle.com/accessibility/support.html</a>
アクセシビリティへの Oracle のコミットメントについて学習します	<a href="http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html">http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html</a>
トレーニングに関する情報を取得します	<a href="http://education.oracle.com">http://education.oracle.com</a>

---

# Oracle Solaris OS のインストールについて

---

- [7 ページの「Oracle Solaris のインストールタスクの表」](#)
- [7 ページの「サポートされている OS のバージョンおよび最新情報」](#)
- [8 ページの「OS のインストールオプション」](#)

## Oracle Solaris のインストールタスクの表

次のタスクの表を使用すると、サポートされている Oracle Solaris のバージョンを Netra Blade X3-2B にインストールするのに役立ちます。

手順	説明	リンク
1	サポートされている Windows OS のバージョンの一覧を確認し、サーバーのソフトウェアおよびハードウェアに関する最新情報を取得する方法を学習します。	<a href="#">7 ページの「サポートされている OS のバージョンおよび最新情報」</a>
2	単一のサーバーまたは複数のサーバーでの OS のインストールのオプションを確認します。	<a href="#">8 ページの「OS のインストールオプション」</a>
3	Oracle System Assistant の概要およびそれを使用してサーバーを管理する方法について確認します。	<a href="#">10 ページの「Oracle System Assistant」</a>
4	必要な手順を実行して、OS のインストールの準備を行います。	<a href="#">13 ページの「OS のインストールの準備」</a>

## サポートされている OS のバージョンおよび最新情報

このセクションを使用して、サポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステム (OS) のバージョンおよび最新のサーバー関連情報を取得する方法について学習します。

- [8 ページの「サポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムのバージョン」](#)
- [8 ページの「プロダクトノートの最新情報」](#)

## サポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムのバージョン

このドキュメントの発行時点で、Netra Blade X3-2B は次の Oracle Solaris オペレーティングシステムをサポートします。

- Oracle Solaris 10 08/11
- Oracle Solaris 11

サポートされているオペレーティングシステムの一覧の更新については、『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』を参照してください。

### 関連情報

- 8 ページの「プロダクトノートの最新情報」

## プロダクトノートの最新情報

ブレードに関する最新情報は、『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』で維持されています。プロダクトノートには、利用可能なファームウェア更新、およびブレードのハードウェアまたはソフトウェアの問題に関する詳細情報が記載されています。このドキュメントおよびその他のサーバー関連のドキュメントは、[http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=Sun\\_Netra\\_X6270\\_M3](http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=Sun_Netra_X6270_M3)にあるブレードのドキュメントライブラリからオンラインで入手できます。

## OS のインストールオプション

OS を単一のブレードにインストールするか、複数のブレードにインストールするかを選択できます。このドキュメントの適用範囲は、単一サーバーへの OS のインストールです。次の表に、これらの2つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	<a href="http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html">http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html</a> を参照してください。

オプション	説明
単一のサーバー	次のいずれかの方法を使用して、単一のブレードに OS をインストールします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ローカル: OS のインストールは、ブレードでローカルに実行されません。物理的にラックにブレードを設置し終えたばかりの場合は、このオプションをお勧めします。追加のハードウェアが必要です。</li> <li>リモート: OS のインストールはリモートの場所から実行されません。Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスするか、手動による OS のインストールを実行します。</li> </ul>

## 関連情報

- [9 ページの「単一のブレードへのインストール方法」](#)

## 単一のブレードへのインストール方法

Oracle Solaris インストールメディアの提供方法を選択します。次の情報を使用して、ローカルかリモートのどちらの OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、および Oracle Solaris 配布メディア。詳細は、 <a href="#">10 ページの「補助付き OS インストール」</a> を参照してください
リモートでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション、リダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、および Oracle Solaris 配布メディア。詳細は、 <a href="#">10 ページの「補助付き OS インストール」</a> を参照してください
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用 - ブレードに接続した物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、および Oracle Solaris 配布メディア。詳細は、 <a href="#">10 ページの「手動による OS インストール」</a> を参照してください
リモートでの CD/DVD ドライブまたは CD/DVD ISO イメージの使用 - JavaRConsole Oracle ILOM アプリケーションを実行しているリモートシステム上でリダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザを備えたりリモートシステム、接続されている物理 CD/DVD ドライブ、Oracle Solaris 配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。詳細は、 <a href="#">10 ページの「手動による OS インストール」</a> を参照してください

## 補助付き OS インストール

---

注 - Oracle System Assistant は、現時点では、Oracle Solaris OS の補助付きインストールをサポートしません。

---

これは、サポートされている OS をブレードにインストールするためのもっとも簡単な方法です。この方法では、Oracle System Assistant アプリケーションを使用します。ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブまたは CD/DVD イメージで Oracle Solaris OS のインストールメディアを提供し、Oracle System Assistant の OS のインストールタスクを使用してインストールプロセスを開始します。OS のインストールタスクを使用するには、Oracle System Assistant がその OS の補助付きインストールをサポートしている必要があります。

サーバー関連の更新および情報については、『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』を参照してください。

## 手動による OS インストール

この方法では、Oracle Solaris 配布メディアをローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、または CD/DVD イメージで提供します。必要なドライバを提供する必要もあります。ブレード用のドライバは、My Oracle Support サイトからサーバー固有および OS 固有のパッケージとして入手できます。OS をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

## 関連情報

- [10 ページの「Oracle System Assistant」](#)

## Oracle System Assistant

Oracle System Assistant とは、x86 Sun Fire、Sun Netra、および Sun Blade サーバー用の単一サーバーシステムの起動および保守ツールです。これは、Oracle の単一システム管理向けの製品と一連の関連ソフトウェアを統合して、ブレードを迅速かつ簡単に起動し保守できるようにするツール群を提供します。Oracle System Assistant のコンポーネントには次が含まれます。

- Hardware Management Pack
- 起動と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む\*) へのユーザーインタフェースアクセス
- Oracle Linux コマンド行環境
- オペレーティングシステム用のドライバとツール
- サーバー固有のファームウェア

- サーバー関連ドキュメント

\* OSのインストールは、一部のオペレーティングシステムではサポートされません。

Oracle System Assistant は、工場出荷時にインストールされる Sun Oracle x86 サーバー向けのオプションです。これには必要なすべてのツールとドライバが含まれており、ほとんどのブレードに取り付けられている USB ドライブ上にあります。

- [11 ページの「タスクの概要」](#)
- [11 ページの「OS のインストールタスク」](#)
- [12 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

## タスクの概要

Oracle System Assistant は、もっとも一般的で役立つ単一サーバー管理プロビジョニングタスクの選択したセットを組み合わせたものです。

次のタスクは、迅速で便利なサーバーの起動と継続的なサーバー管理を可能にします。

- システムの概要とシステムインベントリ情報
- すべてのコンポーネント (ツール、ドライバ、ファームウェアなど) のオンラインアップデートの取得。
- システムファームウェア (BIOS および Oracle ILOM) とホストバスアダプタファームウェアのアップデート
- RAID および Oracle ILOM 構成
- 補助付き OS インストール
- サーバーネットワーク構成
- 機能と組み込みのメディア整合性チェックの無効化
- 実行環境を使用可能にする Linux シェル端末ウィンドウ
- Oracle Hardware Management Pack へのアクセス (Linux シェルを使用)
- Oracle System Assistant の復旧

## 関連情報

- [11 ページの「OS のインストールタスク」](#)

## OS のインストールタスク

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、サポートされている OS のインストールを支援します。OS のインストールメディアを用意すれば、Oracle System Assistant が示す手順に従ってインストールプロセスを実行できます。その際、サーバーのハードウェア構成に基づいて、適切なドライバも取得してくれま

す。OS のインストールタスクは、サーバーでサポートされているすべてのオペレーティングシステムで利用できるわけではありません。ただし、サーバーでサポートされている OS をインストールすれば、Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバに加えてすべてのファームウェアコンポーネント (BIOS、Oracle ILOM、HBA、エキスパンダ) を更新できます。

Oracle System Assistant には、ローカルまたはリモートのどちらかでアクセスできます。ブレードの設置を終えたばかりの場合、Oracle System Assistant をローカルで (ブレードのそばにしながら) 使用することで、ブレードを迅速かつ効率的に起動できます。ブレードの稼働後は、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

## 関連情報

- [12 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

## Oracle System Assistant の取得

ブレードで Oracle System Assistant をサポートしている場合、そのブレードにすでにインストールされている可能性があります。Oracle System Assistant がすでにインストールされており、最新バージョンが必要な場合は、更新の取得タスクを使用して Oracle System Assistant を更新できます。Oracle System Assistant がブレードにインストールされているが、破損または上書きされている場合は、My Oracle Support サイトから ISO 復旧イメージをダウンロードしてください。

ブレードに Oracle System Assistant が存在するかどうかの確認方法、および更新や復旧手順の実行方法については、『Netra Blade X3-2B 管理ガイド』を参照してください。

## 関連情報

- [13 ページの「OS のインストールの準備」](#)

# OS のインストールの準備

---

OS をインストールする前に、インストール方法の設定、仮想ディスクの作成、およびブートデバイスの設定を行う必要があります。このセクションでは、OS のインストールを準備する手順について説明します。次のタスクの表をガイドとして使用してください。

手順	タスク	リンク
1	OS インストールのタスクの表をすでに確認している必要があります。	7 ページの「Oracle Solaris OS のインストールについて」
2	インストールドキュメントを入手します。	13 ページの「Oracle Solaris のドキュメントの入手」
3	選択したインストール方法に基づいてインストールの設定を行います。	14 ページの「インストールセッションの設定」
4	最適デフォルト値を読み込み、BIOS モードを選択して、BIOS を準備します。	18 ページの「BIOS の設定」
5	OS をインストールして更新します	21 ページの「Oracle Solaris OS のインストール」

## Oracle Solaris のドキュメントの入手

Oracle Solaris オペレーティングシステムのサポート対象バージョンのドキュメントは次で入手できます。

- Oracle Solaris 10: <http://download.oracle.com/docs/cd/E19253-01/index.html>
- Oracle Solaris 11: <http://www.oracle.com/technetwork/documentation/solaris-11-192991.html>

---

注 - Oracle Solaris のドキュメントは、Oracle Solaris OS ソフトウェアに同梱の Documentation DVD にも収録されています。

---

## インストールセッションの設定

このセクションでは、ローカルまたはリモートインストールセッションを設定する方法について説明します。OSのローカルインストールはサーバーで実行されます。OSのリモートインストールは、JavaRConsole システム、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション、およびリダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは CD ISO イメージを使用して実行されます。

- [14 ページの「ローカルインストールを設定する」](#)
- [15 ページの「リモートインストールを設定する」](#)

### ▼ ローカルインストールを設定する

ローカルインストールを設定するには、この手順を使用します。

---

注-OSのローカルインストールの場合、追加のハードウェアが必要で、サーバーの Web アクセスが推奨されます。

---

- 始める前に
- 『Netra Blade X3-2B 設置ガイド』に説明されているように、サーバーの設置を行なっておく必要があります。
  - 次の項目が必要です。
    - 15 ピン (DB-15) コネクタ機能を備えたビデオモニター
    - USB キーボードとマウス
    - USB デバイス (CD/DVD ドライブまたはサムドライブ)
  - サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるようにするために、サーバーの Web アクセスが推奨されます。
- 1 サーバーがスタンバイ電力モードであることを確認します。
  - 2 ブレードの前面にあるユニバーサルコネクタポート (UCP) に 3 ケーブルドングルを接続します。
  - 3 ビデオモニターを 3 ケーブルドングルのビデオコネクタに接続します。
  - 4 キーボードおよびマウスをサーバーの前面にある USB コネクタのいずれかに (または 3 ケーブルドングルの USB コネクタのいずれかに) 接続します。
  - 5 CD/DVD ドライブをサーバーの前面にあるほかの USB コネクタに (または 3 ケーブルドングルの USB コネクタのいずれかに) 接続します。

#### 参考 次の手順

[18 ページの「BIOS の設定」](#)

## ▼ リモートインストールを設定する

リモートインストールを設定するには、この手順を使用します。

---

注- CD-ROM または CD-ROM イメージのオプションを使用して OS をインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするため、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールの所要時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。また、このインストール方法では、一時的なネットワークエラーにより問題が生じるリスクが高くなります。

---

始める前に 次の要件が満たされている必要があります。

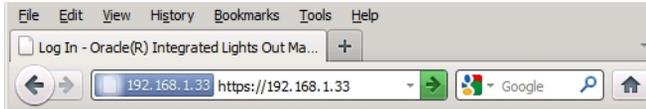
- 『Netra Blade X3-2B 設置ガイド』に説明されているように、サーバーの設置を行なっておく必要があります。
- JavaRConsole システムが、Oracle Solaris、Linux、または Windows で実行されている必要があります。
- Sun サーバーの Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークに JavaRConsole システムが接続されている必要があります。
- Java Runtime Environment (JRE) 1.5 をインストールする必要があります。
- JavaRConsole システムで Solaris を実行している場合は、JavaRConsole が CD/DVD-ROM ドライブにアクセスできるように、ボリューム管理を無効にする必要があります。
- JavaRConsole システムが Windows を実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティ機能を無効にします。
- サーバーのサービスプロセッサ (SP) が、使用しているサーバーの Oracle ILOM ドキュメントの手順に従って設定済みです。
- Oracle ILOM にアクセスするための SP の IP アドレスが必要です。SP IP アドレスの特定については、『Netra Blade X3-2B 設置ガイド』を参照してください。
- サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるようにするために、サーバーの Web アクセスが必要です。

---

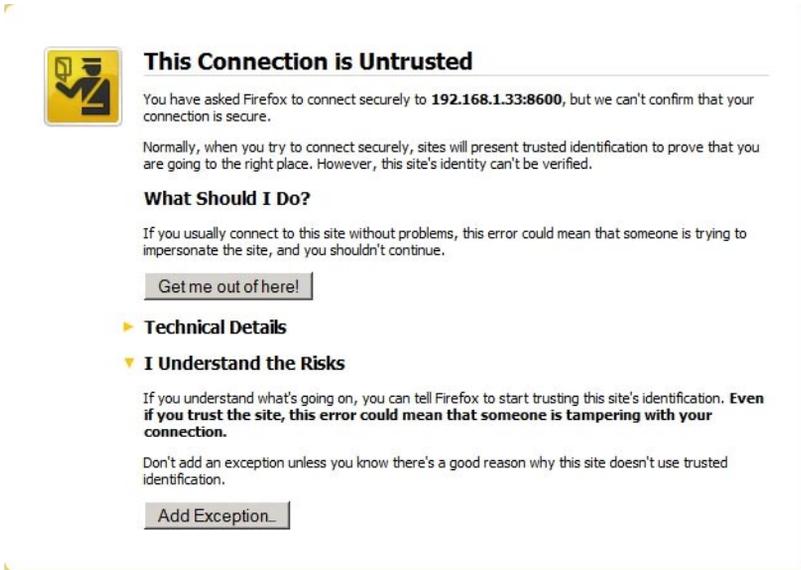
注- この手順に示されているスクリーンショットの一部は、表示される画面とは異なる場合があります。

---

- 1 Oracle ILOM にアクセスするには、サービスプロセッサの IP アドレスを JavaRConsole システムの Web ブラウザに入力します。

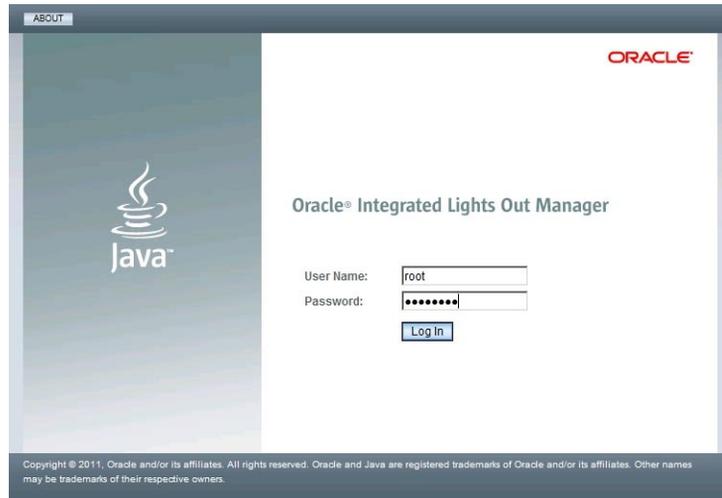


「Security Alert」ダイアログボックスが表示されます。

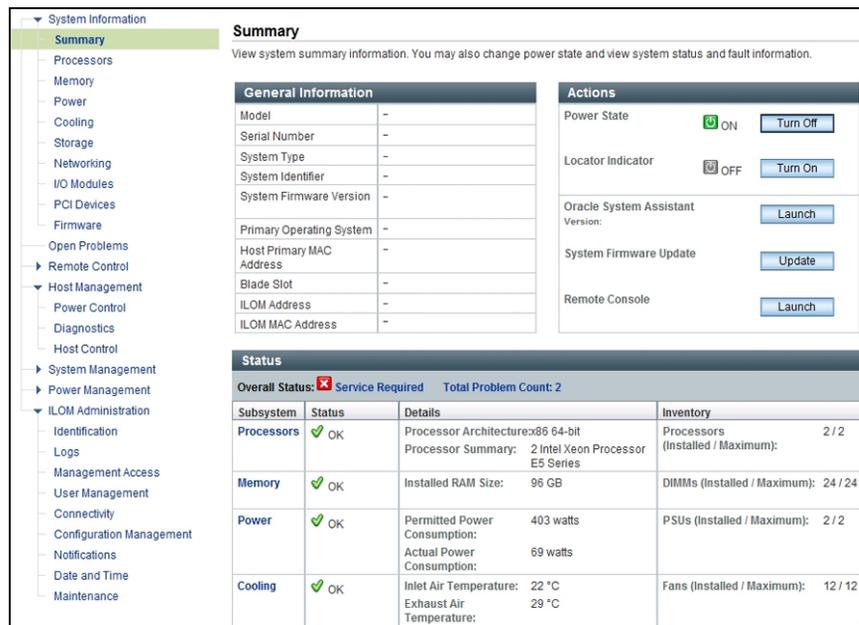


- 2 「I Understand the Risks」リンクをクリックします。

- 3 「Add Exception」をクリックします。  
Oracle ILOM のログイン画面が表示されます。



- 4 ユーザー名とパスワードを入力し、「Log In」をクリックします。  
デフォルトのユーザー名は **root**、パスワードは **changeme** です。  
Oracle ILOM の「System Summary」画面が表示されます。

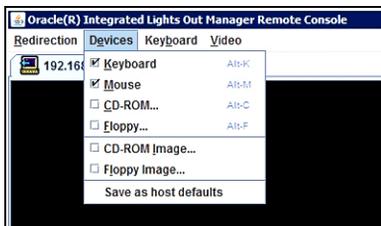


Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	OK	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: 2 Intel Xeon Processor E5 Series	Processors (Installed / Maximum): 2 / 2
Memory	OK	Installed RAM Size: 96 GB	DIMMs (Installed / Maximum): 24 / 24
Power	OK	Permitted Power Consumption: 403 watts Actual Power Consumption: 69 watts	PSUs (Installed / Maximum): 2 / 2
Cooling	OK	Inlet Air Temperature: 22 °C Exhaust Air Temperature: 29 °C	Fans (Installed / Maximum): 12 / 12

- 5 「Remote Console Launch」 ボタンをクリックします。  
jnlpgenerator.jnlp ファイルのダイアログボックスが表示されます。



- 6 「Open」 をクリックします。  
JavaRConsole 画面が表示されます。



- 7 「Devices」 メニューから、選択した配布方法に従って CD 項目を 1 つ選択します。
  - **CD-ROM リモート**。JavaRConsole システムに接続された CD/DVD-ROM ドライブからオペレーティングシステムソフトウェア CD/DVD のコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。
  - **CD-ROM イメージ**。JavaRConsole システム上にあるオペレーティングシステムソフトウェアの .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image」を選択します。

参考 次の手順

[18 ページの「BIOS の設定」](#)

## BIOS の設定

オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように、BIOS 設定が構成されていることを確認してください。次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています。

- [19 ページの「BIOS の最適デフォルト設定を読み込む」](#)
- [19 ページの「BIOS モードを設定する」](#)

## ▼ BIOS の最適デフォルト設定を読み込む



注意- この手順では、BIOS の設定をデフォルト値に戻し、これまでにカスタマイズされた設定をすべて上書きします。カスタマイズされた設定を維持するには、デフォルト値を読み込む前に、各メニューを確認し、カスタマイズされた値を書きとめます。

BIOS 設定ユーティリティーには、サーバーの最適 BIOS 設定を読み込むためのオプションが含まれています。この手順を新しく設置されたサーバーで実行して、BIOS が最適デフォルト値に設定されるようにします。

始める前に次を確認します。

- 始める前に
- サーバーにはストレージドライブが適切に取り付けられています。
  - サーバーへのコンソール接続が確立されています。
- 1 サーバーの電源を入れます。  
ビデオ (KVM または RKVM) コンソールに POST メッセージが表示されます。
  - 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2** キーを押して **BIOS 設定ユーティリティー** にアクセスします。  
BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。
  - 3 出荷時のデフォルト値が設定されるようにするには、**F9** キーを押します。
  - 4 変更を保存して **BIOS 設定ユーティリティー** を終了するには、**F10** キーを押します。

### 参考 次の手順

- [19 ページの「BIOS モードを設定する」](#)

## ▼ BIOS モードを設定する

BIOS ファームウェアは、レガシー BIOS と UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) の両方をサポートしていますが、デフォルト設定は Legacy です。オペレーティングシステムによっては、レガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしているものもあれば、レガシー BIOS のみをサポートしているものもあります。これらは、OS をインストールする前に BIOS モードを設定するためのオプションです。

- OS がレガシー BIOS のみをサポートしている場合は、OS のインストールを行う前に、BIOS がレガシーモードに設定されていることを確認する必要があります。

- OS がレガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしている場合は、OS のインストールを実行する前に、レガシーモードと UEFI モードのどちらかに BIOS を設定できます。

---

注 - Netra Blade X3-2B の初期リリースでは、Oracle Solaris OS は UEFI BIOS をサポートしません。サーバーのハードウェアおよびソフトウェアに関する最新情報は、『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』で入手できます。

---

- 1 サーバーの電源を入れます。  
コンソールに POST メッセージが表示されます。
- 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2** キーを押して **BIOS 設定ユーティリティ** にアクセスします。  
BIOS 設定ユーティリティのメイン画面が表示されます。
- 3 **BIOS 設定ユーティリティ** で、左右の矢印キーを使用して「**Boot**」画面に移動します。  
「**Boot Menu**」画面が表示されます。
- 4 下矢印キーを使用して、「**UEFI/BIOS Boot Mode**」フィールドを選択します。
- 5 **Enter** キーを押し、上下の矢印キーを使用して「**Legacy BIOS**」オプションを選択します。
- 6 変更を保存して **BIOS 設定ユーティリティ** を終了するには、**F10** キーを押します。

#### 参考 次の手順

- [21 ページの「Oracle Solaris OS のインストール」](#)

# Oracle Solaris OS のインストール

---

このセクションでは、Oracle Solaris OS をインストールする方法について説明します。論理および物理ネットワークインタフェース名の特定手順およびサーバーシステムツールのインストール手順についても説明します。

手順	説明	リンク
1	インストールを開始します。	21 ページの「Oracle Solaris OS のサポートされているバージョンをインストールする」
2	ネットワークに接続されたサーバー用にオペレーティングシステムを構成しているときは、各ネットワークインタフェースの(OSによって割り当てられた)論理名および物理名(MAC アドレス)の指定が必要となる場合があります。	22 ページの「論理および物理ネットワークインタフェース名を特定する」
3	Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードしたソフトウェアパッケージに付属している Oracle Solaris OS のシステムツールをインストールします。	25 ページの「サーバーシステムツールのインストールとドライバへのアクセス」

## ▼ Oracle Solaris OS のサポートされているバージョンをインストールする

CD/DVD インストールメディアまたは ISO イメージを使って OS をローカルまたはリモートにインストールするには、この手順を使用します。

- 始める前に
- 13 ページの「OS のインストールの準備」セクションの手順を実行します。
  - Oracle Solaris OS のインストールドキュメントを確認します。
    - Oracle Solaris 10: <http://download.oracle.com/docs/cd/E19253-01/index.html>
    - Oracle Solaris 11: <http://www.oracle.com/technetwork/documentation/solaris-11-192991.html>

- 1 インストールメディアがプライマリブートドライブにインストールされていることを確認します。
- 2 サーバーの電源を入れます。  
サーバーは CD/DVD または CD/DVD ISO イメージからブートし、「Solaris Installation Program」画面が表示されます。
- 3 テキストまたは GUI ベースのインストールプログラムを使用して OS をインストールします。

## ▼ 論理および物理ネットワークインタフェース名を特定する

ネットワークに接続されたサーバー用にオペレーティングシステムを構成しているときは、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) の指定が必要となる場合があります。このトピックでは、この情報を取得する方法を説明します。

論理名および物理名 (MAC アドレス) を含む、MAC アドレスとネットワークインタフェースに関する情報を表示するには、この手順を使用します。

- 1 「Install Type」メニューから、「Option (6) Single User Shell」を選択して、Enter キーを押します。

---

注-別の方法として、これらのコマンドをコマンドシェルから実行することもできます。

---

OS インスタンスのマウントに関するメッセージが表示されたら、「q」を選択します。OS インスタンスはマウントしないでください。

「Starting Shell」というメッセージが表示されます。次の図を参照してください。

```
1. Solaris Interactive (default)
2. Custom JumpStart
3. Solaris Interactive Text (Desktop session)
4. Solaris Interactive Text (Console session)
5. Apply driver updates
6. Single user shell

Enter the number of your choice.
Selected: 6

Single user shell

Searching for installed OS instances...

Multiple OS instances were found. To check and mount one of them
read-write under /a, select it from the following list. To not mount
any, select 'q'.

 1 /dev/dsk/c2t0d0s0 Solaris 10 6/06 s10x_u2uos_08 X86
 2 /dev/dsk/c2t1d0s0 Solaris 10 6/06 s10u2_08-DN-WOS X86

Please select a device to be mounted (q for none) [?,??,q]: q

Starting shell.
#
```

- 2 コマンドプロンプト(#)で次のコマンドを入力して、すべてのネットワークインタフェースを **plumb** します。

```
# ifconfig -a plumb
```

---

注-plumb プロセスにはしばらく時間がかかることがあります。

---

- 3 コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# ifconfig -a
```

Solaris の名前付きインタフェースおよび MAC アドレスの出力が表示されます。

```
# ifconfig -a | more
e1000g0: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 2
  inet 0.0.0.0 netmask 0
  ether 0:14:4f:c:a1:ee
e1000g1: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 3
  inet 0.0.0.0 netmask 0
  ether 0:14:4f:c:a1:ef
e1000g2: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 4
  inet 0.0.0.0 netmask 0
  ether 0:14:4f:c:a5:d6
e1000g3: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 5
  inet 0.0.0.0 netmask 0
  ether 0:14:4f:c:a5:d7
e1000g4: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 6
  inet 0.0.0.0 netmask 0
  ether 0:14:4f:c:a1:4e
e1000g5: flags=1000842<BROADCAST,RUNNING,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 1
  inet 0.0.0.0 netmask 0
  ether 0:14:4f:c:a1:4f
e1000g6: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 7
  inet 0.0.0.0 netmask 0
  ether 8:0:20:b6:ce:94
e1000g7: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 8
  inet 0.0.0.0 netmask 0
```

出力例では:

- 最初の列の e1000g# エントリは、Solaris 論理名付きインタフェースです。出力の最初の列は、Solaris がネットワークインタフェースに割り当てた論理名を表します。
- 2 列目 (3 行目) の ether #:#:#:#:# エントリは、ネットワークポートの物理 MAC アドレス名です。

例:

Solaris の名前付きネットワークインタフェース「e1000g0」の物理 MAC アドレスは、「0:14:4f:c:a1:ee」です。

- 4 この情報をファイルに保存するか、書きとめます。
- 5 完了したら、システム構成スクリプトを開始するために、コマンド行で「**sys-unconfig(1M)**」と入力します。  
このコマンドは、システム構成を工場出荷時のデフォルトに復元します。



注意 - sys-unconfig(1M) コマンドを実行するとシステムが停止し、工場出荷時の設定が復元されます。このコマンドは、システムを再構成する場合以外は実行しないでください。

例:

```
# sys-unconfig
WARNING
This program will unconfigure your system. It will cause it
to revert to a blank system - it will not have a name or know
about other systems or networks.
This program will also halt the system.
Do you want to continue (y/n) ?
```

システムがリブートされ、構成スクリプトが開始されます。

## サーバーシステムツールのインストールとドライバへのアクセス

Oracle System Assistant で入手できるソフトウェアおよび Oracle Solaris OS ソフトウェアパッケージを使用して、サーバーのシステムツールにアクセスし、システムドライバを更新するには、これらの手順を使用します。

- 25 ページの「サーバーのシステムツールをインストールする」
- 27 ページの「システムドライバにアクセスする」

### ▼ サーバーのシステムツールをインストールする

Oracle Hardware Management Pack や LSI MegaRAID Storage Manager (LSI MSM) などのサーバーシステムツールは、Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードした Oracle Solaris OS ソフトウェアパッケージで入手できます。

サーバーシステムツールにアクセスしてインストールするには、この手順を使用します。

#### 1 次のいずれかを実行します。

- システムに **Oracle System Assistant** がない場合:
  - a. **My Oracle Support** サイトから最新のサーバーシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。  
詳細は、『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』を参照してください。
  - b. ダウンロードしたツールおよびドライバパッケージをサーバーに解凍します。
  - c. 解凍されたディレクトリファイルシステム内で、**Solaris OSTools** フォルダに移動します。  
Solaris/OS\_name/version/Tools

ここで、`OS_name` はインストールされた Oracle Solaris OS です。

- システムに **Oracle System Assistant** がある場合:
  - a. OS 内でファイルブラウザを開き、**Oracle System Assistant** の USB デバイスに移動します。  
USB デバイスの名前は `ORACLE_SSM` です。
  - b. 次のパス構造を使用して、適切な **Solaris OS Tools** フォルダに移動します。  
`Solaris/OS_name/version/Tools`  
ここで、`OS_name` はインストールされた Oracle Solaris OS です。

## 2 ツールをインストールするには、次を行います。

- **LSI MSM** をインストールするには:  
重要な情報については、`Tools/MSM` ディレクトリにある `readme.txt` ファイルを参照してください。
  - a. `MSM/disk` ディレクトリに移動し、`install.sh` ファイルを実行します。
  - b. スクリプトの進捗に従ってインストールを完了します。  
詳細は、[http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg\\_x\\_sas6-r-rem-z.aspx](http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg_x_sas6-r-rem-z.aspx) にある LSI MSM のインストール手順を参照してください。
- **Mega CLI** をインストールするには:  
重要な情報については、`Tools/MegaCLI` ディレクトリにある `readme.txt` ファイルを参照してください。
  - a. `MegaCLI` ディレクトリに移動し、`MegaCLI.sh` ファイルを実行します。
  - b. スクリプトの進捗に従ってインストールを完了します。
- **Oracle Hardware Management Pack** をインストールするには、次にある手順を参照してください。  
<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>  
`hmp-tools/oracle-hmp-version/SOFTWARE` ディレクトリ (ここでの `version` は Oracle Hardware Management Pack のバージョン) にある `hmp-prerequisite-installation.txt` という ReadMe ファイルを参照してください。

## ▼ システムドライバにアクセスする

Oracle System Assistant および Oracle Solaris OS のダウンロードパッケージに含まれる Drivers ディレクトリにアクセスするには、この手順を使用します。

- 次のいずれかを実行します。
  - システムに **Oracle System Assistant** がない場合:
    - a. **My Oracle Support** サイトから最新のサーバーシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。  
詳細は、『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』を参照してください。
    - b. ダウンロードしたツールおよびドライバパッケージをサーバーに解凍します。
    - c. 解凍されたディレクトリファイルシステム内で、**Solaris OS Drivers** フォルダに移動します。  
`Solaris/OS_name/version/Drivers`  
ここで、`OS_name` はインストールされた Oracle Solaris OS です。
  - システムに **Oracle System Assistant** がある場合:
    - a. OS 内でファイルブラウザを開き、**Oracle System Assistant** の USB デバイスに移動します。  
USB デバイスの名前は `ORACLE_SSM` です。  
USB のマウント手順については、『Netra Blade X3-2B 管理ガイド』を参照してください。
    - b. 次のパス構造を使用して、適切な **Solaris OS Drivers** フォルダに移動します。  
`Solaris/OS_name/version/Drivers`  
ここで、`OS_name` はインストールされた Oracle Solaris OS です。



# 索引

---

## B

### BIOS

- BIOS モード、設定, 19-20
- 最適デフォルト設定、読み込み, 19
- BIOS およびファームウェア更新, Solaris OS, 11
- BIOS の最適デフォルト設定, 19
- BIOS モードの設定, 19-20

## H

- Hardware Management Pack (Solaris OS), 11

## J

- JavaRConsole, 設定, 15-18

## O

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM), リモートコンソールアプリケーション, 15-18
- Oracle System Assistant
  - Solaris OS, 10
  - Solaris OS、インストールタスク, 11
  - Solaris コマンド行環境, 10
  - 最新バージョンの取得 (Solaris OS), 12
- Oracle ILOM 構成 (Solaris OS), 11
- Oracle Solaris オペレーティングシステム、サポートされているバージョン, 8
- OS のインストール
  - Solaris の手動によるインストール, 10

### OS のインストール (続き)

- Solaris の単一サーバー, 9
- Solaris、補助付きインストール, 10
- OS のインストールタスクの概要, Solaris OS, 11
- OS の手動によるインストール, Solaris, 10

## R

- RAID 構成、Solaris OS, 11

## S

- Solaris 10 オペレーティングシステム
  - 論理名と物理名によるネットワークインタフェースの特定
    - sys-unconfig コマンド, 24
- Solaris 10 のインストール
  - ドキュメント, 13
  - ネットワークインタフェース名, 22-25
  - 物理名, 22-25
  - sys-unconfig コマンド、Solaris, 24

## U

- Unified Extensible Firmware Interface (UEFI), 19-20

い

インストール  
リモート設定, 15-18  
ローカル設定, 14

お

オペレーティングシステム, Solaris のツールとド  
ライバ, 10  
オペレーティングシステムのインストール, Solaris  
補助付きの方法, 11

こ

更新, ツールとドライバ, 25  
更新の取得タスク, 25

さ

サーバー固有のファームウェア, Solaris OS, 10  
サーバーネットワーク構成 (Solaris OS), 11  
サーバーのシステムの概要とシステムインベント  
リ情報 (Solaris OS), 11  
サービスプロセッサの復旧 (Solaris OS), 11  
サポートされている Oracle Solaris オペレーティン  
グシステムのバージョン, 8

つ

ツールとドライバ, 更新, 25

と

ドキュメント, Solaris 10 オペレーティングシステ  
ム, 13  
ドライバ, 更新, 25

ね

ネットワーク構成 (Solaris OS), 11

ふ

ファームウェア更新 (Solaris OS), 11  
ファームウェアの更新タスク, 25

ほ

補助付き OS インストール, Solaris, 10

り

リモートインストール, 設定, 15-18  
リモートコンソールアプリケーション, Oracle  
ILOM, 15-18  
リモートコンソールからの Oracle Solaris のインス  
トール, 15-18

れ

レガシー BIOS, 19-20

ろ

ローカルインストール, 設定, 14